

調布市『いのちと心の教育』月間の取り組み

調布市の小・中学校は、平成24年12月に市内小学校で発生した事故を風化させないために、毎年12月を「いのちと心の教育」月間と位置付け、自他の命(いのち)を大切にし、一人ひとりの違いを認め合う道徳授業の充実を図る取組や、児童・生徒が食物アレルギーについて正しく理解を深める取組を行っています。

各小・中学校では、この取組を通して、豊かな心と健やかな体を育む教育活動に取り組んでいます。

また、教職員に対しては、食物アレルギーに対する認識を深め、未然防止の取組や緊急時の適切な対応法を習得するための研修を行っています。

本校でも、『命の大切さ』について、全校朝礼での校長の講話、各学級での道徳授業を実施しました。

第1学年 100万回生きたねこ

100万回死んで100万回生きたねこが主人公

ねこは1回も泣いたことも人を好きになったこともなかったが、最後に一匹の白いねこ出会い人生が変わった。初めて自分以外のものを好きになり、いつまでも生きていたいと思うようになった。白いねこが亡くなると、ねこは初めて泣き、その後生き返ることはなかった。

かけがえのない自他の生命や一度きりの人生をどのように生きるかについて考える。



第3学年 アンパンマンのエクス

4歳の長男を小児がんで亡くした母親のブログ。神経芽細胞腫(小児がん)により余命1か月の診断を受けたが、輸血によって10か月生き抜くことができた。男の子は輸血を受けると元気がわいてくることから、輸血用血液を「アンパンマンのエクス」と呼んでいた。

名前も知らない人の善意によって救われる命があることや、献血の大切さに気づくとともに、自分たちにできることは何なのかを考える。

全校朝礼

2022.12.5

校長講話 生命尊重

いのちについて

いきたくてもいきられなかった命

いのちを考える道徳授業 各教室

2022.12.14 5限目 13:30~14:20

第2学年 コウノドリ

答えのない選択

大切な2つの命のために

「胎児の出産」と「母親の母体」かの選択にせまられた夫婦の葛藤を通して、命の尊さを感じるとともに、命に関する問題について選択することの難しさを考える。

